

埼玉大学教養学部同窓会だより

けやき会

第11号

けやき会の皆様へ

けやき会会長 榎木誠
(70年卒中国文化)



けやき会の皆様、元気にご活躍のことと思います

ます。教養学部同窓会「けやき会」は創立20周年を過ぎ、青年期を迎えました。この間、卒業後各分野で活躍する同窓会のネットワークを強化するため、年1回の同窓会総会の開催や会報発行などの活動を続けて来ました。また、同窓生と在学生の結びつきを強めるために、教養学部とも協力した就職支援などの活動に取り組んできました。

2013年度からは、教養学部の御支援とご協力を得て、同窓生と在学生を結ぶ学びの場として、教養学部の講義の中に、けやき会の「寄附講座」を開講する

グローバル人材育成の推進事業

教養学部長 伊藤博明

2012年4月より高木英至先生のあと学部長を務めております。埼玉大学に1988年赴任し、当初は教養部・教養学部で倫理学を、1995年からは教養学部で芸術論を教えており、専門はイタリア・ルネサンスの思想と芸術です。

榎木誠会長を始めとして、けやき会の皆様には日頃からたいへんお世話になっております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本年度は埼玉大学にとって、とりわけ教養学部にとって特筆すべきことがございました。それは、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されたことです。世界全体がグローバル化する中で、日本の若い世代が「内向き」にな



っている話題になります。が、本事業は、このような事態を打破して、グローバルに活躍できる人材を育成する構想をもつ大学を拠点として選定し、国が重点的に財政支援するものです。

「グローバル人材育成推進事業」は全学型と特色型がありますが、埼玉大学は、教養学部を先導的な学部として全学のグローバル人材育成へと展開する特色型に申請し、幸いにも採択されました。特色型は全国で11大学から申請がありましたが、採択されたのは31大学です。これから平成28年度までの5年間、総額で3億円強の予算措置を受けながら、教養学部では事業を推進してまいります。

実は、教養学部では数年前より、グローバル人材の育成を目指したカリキュラムを策定してきました。例えば、英語とともに第二外国語を必修化して、ドイツ・フランス・ロシア・中国・韓国・スペイン・イタリアの各国語から修得するようにしました。また、さまざまな文化や価値観が存在している世界を学ぶために多文化理解科目を設けて、

これも必修としました。また、留学した学生が取得した単位を教養学部の卒業必要単位に組み入れることを容易にしました。したがって、今回採択された事業は、これまでの教育方針を変えるわけではなく、内容をいっそう発展させるものです。この事業の特色を挙げますと、(1) 国際的に通用する教育課程の整備、(2) 正確な日本理解に基づいた多文化理解教育の推進、(3) 高い水準の英語運用能力が身につく授業の設置、(4) 4年間の修業期間における海外大学への留学と海外インターンシップの促進、(5) そのための入学から卒業に至るまでの個別指導の充実、(6) TOEFLなどの英語能力検定試験に即応した指導と財政的な援助、です。

まだ端緒に着いたばかりで右往左往しているのが現実ですが、一歩ずつでも先に進むべく努力を重ねていくところです。けやき会の皆様には、これまでと同様に、今の教養学部の学生と教員を暖かく見守っていただきたく、心よりお願い申し上げます。



転職される 先生から

福岡安則先生

(社会学)



毎年夏の調査実習

1992年6月、わたしは千葉県立衛生短期大学から埼玉大学教養学部赴任してきた。それまで所属が短大だったため、学生たちと一緒に調査実習に出かけたいなと思っても、できなかった。

着任したその年からだったか翌年からだったかの記憶は定かではないが、以来、毎夏の「社会調査実習」を欠かさずやってきた。

わたしの研究テーマの一つが部落差別問題だったこともあって、毎年の行き先は、栃木県内の被差別部落。たいてい部落内の「集会所」に貸布団で1泊。昼間のうちに地区内を見せてもらい、夜と午前「聞き取り」をさせてもらうかたちだ。およそ20年間で、部落に一緒にいった学生の人数は、300人ぐらいか。

マイノリティ問題の当事



2012年度卒論発表会、中央は福岡先生

者から「聞き取り」をさせてもらう、それを音声起こして、事例にまとめる、という聞き取り調査の手法をマスターした学生が、どれだけいたかは心もとない。ただ、被差別の当事者として向き合っただけに話を聞く体験から、わたしたちが差別の問題に向き合うときのいちばん大事なものを掴み取った学生は、けっこう多か

ったのではないかと思う。

差別にかかわる意識を論じた古典はG・W・オルポートの『偏見の心理』だが、いつのまにか、「偏見」間違った知識」と読み間違えられ、同和教育の場などでも、「正しい知識」の注入が是とされてしまった。オルポートの「対等な私たちでの出会い」だったのだ。上から視線でもなく、遠くから眺めるのでもなく、同じ目の高さで向き合うこと。

そこで獲得される、新たな、被差別当事者のイメージこそが、肝心なものなのだ。その点、一緒に部落を訪ねた学生たちからは、「異質視」したり「劣位視」したりするような部落イメージは、吹き飛んだのではないかと思っている。

ささやかではあれ、そういう取り組みを、この埼玉大学教養学部で長年、継続できたことは、ほんとによかった。学生たちを受け入れてくれる部落の側では、自分の生きてきたライフスタイルを語ることが、自らのエンパワメントにつながる、というふう位置付

けてくれた。毎年毎年、学生たちを受け入れてくれた部落のみなさんに、感謝したい。

同窓生から

文学部文学科の

思い出

豊嶋健男(57年卒)



先生5人に専攻生5人

私は埼玉大学文学部文学科を1957年(昭和32年)に卒業した者です。当時の大学生活を思い出すまま書いてみました。

当時の埼玉大は文学部と教育学部の2学部のみで文学部は北浦和の西口駅前にキャンパスを構え、教育学部は浦和の常盤地区にキャンパスがありました。

文学部の学生はほとんどの講義が文学部で行われましたが教職課程を履修しようとする教育学部まで足を運ばなければなりませんでした。両学部の距離は歩いて15分ぐらいはありましたでしょうか、ずいぶん不自由に感じたものです。それにサークルの部室が教育学部にあると両学部の間

を何回も往復することになり、挙げ句の果ては最後の講座を欠席するということもありました。

私は国語・国文学を専攻しましたがご存知の通り2年次までは一般教養課程で、文学科は1組と2組に編成され、3年次に専門課程に進んで各専攻に分かれました。文学科の学生の多くは法律や経済などの社会科学系に進み、文学系は数が少なくしかもその大半が英文・独文・仏文といった外国語系で国語・国文を専攻しようとする者は私と小西弘太郎さん(故人)の2人だけでした。

当時の国語・国文研究室は吉田澄男教授・大久保忠國教授・上原久助教授・鈴木章助教授・長谷章久助手(後の教養学部長)という錚々たるスタッフで、それに対して4年次専攻生は水谷秀夫さん・秋谷(青野)恵子さんの2人。その年の3月に粉川宏さん(故人)が第3期生として初めて国文を卒業されたという状態でした。

私の年次は教育学部から時本(今)美智子さんが転部してきましてので全部で

文理学部文学科校舎



5人。5人の先生に対して専攻生も5人、その前年は3人という実に恵まれた環境の中での学生生活でした。私と小西さんは2年次の後半から研究室に入入りしていましたから粉川さんとも早くから知り合い、この5人以後から時本さんが加わって、毎年、正月には5人の先生方の自宅に新年の挨拶に伺っていました。その習慣はその後の方々にも引き継がれました。

当時の研究室は2つの小さな部屋のある木造の建物で、一方には先生方の机があり（一人ひとりの研究室はありませんでした）。もう

一つは専攻生が出入りして、演習に使われていました。最終学年になると卒業論文を提出しなければなりません。4年生は研究室に籠もって研究・論文執筆に追われます。そのため研究室の空いている机を借りて1日そこで勉強しています。私も3年次までに卒業単位をほぼ修めて終日研究室に籠もるといふ日々を過ごしました。

今も続く、国語・国文の同窓会組織「あかね会」

粉川宏さんが卒業された昭和30年に私たち専攻生の間に卒業生も含めた同窓会的な組織が出来ました。1年に1回は集まって卒業生の近況を伺う親睦会です。会は「あかね会」と命名されました。31年に水谷さん・秋谷さんが卒業され、その後毎年卒業生が出て在校生も含めて会員の数も増えていきました。

卒業生は先生方に社会へ出てからの生活ぶりを報告します。会員が増えると共に報告もバラエティに富んで来ました。しかし、昭和40年に文理学部が改組され、新たに教養学部ができると新規会員が入会するこ

とはなくなりました。

現在。会には35人の会員がいて会は存続していますがすがすがしく、平成11年に鈴木章先生が100歳で天寿を全うされ、報告すべき5人の先生方がみな鬼籍に入られ、また、会員の高齢化も進み、活動はほとんどストップ状態です。先生方のおられないこの会を今後継続していくべきか検討を迫られています。

活発なサークル活動

私は高校時代から演劇部に参加しておりましてので、入学後、早速演劇研究会に入会しました。サークルには文理と教育の学生が参加していましたので教育の方々とも親しく付き合うことが出来ました。当時の学内には公演の出来るような施設は無く、埼玉会館や小松原高校の講堂を借りて公演活動を行っていました。

それでもレパートリーにはブレイヒトやサルトル、チエーホフ、矢代静一、福田恒存、木下順二、森本薫など演劇史上の名作や当時の最新の戯曲を上演していたつもりです。私の卒論は日本近代戯曲史でサークル活動と無縁のものではありません。

せんでした。

こんな具合の学生生活でしたが、それなりに充実したと思います。卒業後社会に出て他大学出身の友人の学生生活を聞くと、定員を遙かに上回る講義が大教室で行われていたとか、マージャンに明け暮れる生活だった等々。それに比べて、当時の埼玉大は、規模は小さく、施設は決して充実していたとはいえませんが、そこには血の通った師弟関係が生まれ、厚い友情に満ちた生活があった事を実感しました。

時空を超える



長竹 均(90年卒)

私は織物の町、足利の片田舎、司法書士の祖父、教育者の父、母、兄、妹2人の7人家族で生まれ育ち、四方八方から機織りの音が一晚中間こえる程、年中賑やかだった。

当時はそのくらい繊維産業が栄えていたので、バブル前から、景気の良い町だった。そのおかげで、小さな寿司屋やレストラン、専門店がたくさんあり、何かの記念日に連れて行ってく

れる外食が小学生の頃の一歩の楽しみだった。コーヒー専門店も近所にあり、コーヒー党になったのも10歳頃だった。

そんなわけで、小学生の時の夢は『調理師』で、いつか自分の店を出すのだと、中学卒業後はすぐに働くとは強く決めていた。そんな私を見て、親が『高校出てからでも』とやりわり説得、高校進学することに：だが、職人の『板前になるなら中卒で働かなきゃ遅い』との言葉を真に受けていた自分にとって、高校進学＝夢を諦めることだった。

目標を失った高校時代の私は、進学校がゆえに『皆が大学に行くから行く』風潮にも疑問を持ち、進路を迷い続けていた。そして見つけたのが埼玉大学教養学部だった。リベラル・アーツ自由な学風に惹かれ、86年入学、現代社会学・マスコミ論を専攻した。

大学生活は最高に楽しかった。全国から集まった多様な学友達との自由な交流、ゼミだけでなく、控室をはじめ、生協、誰かのアパートやツーリング先：色々な場所での雑談や談義、討論

の毎日だった。様々な意見や考え方、情報を交換し合い、視野が広がり、自分自身が日々成長していくような感覚で、とても新鮮で充実していた。

88年夏、オートバイでの北海道ツーリングを1カ月経験。日本中から集まるライダー達と、一晩で昔からの友達のような関係になれる場所へライダーハウスに感銘。そこから生まれた夢が『ログハウスの喫茶店』だ。『自由でボーダレスな交流ができる場所』を自分が提供してみたいと思った。

30歳までに独立開業と決意、バブル絶頂期の売り手市場だった90年、開業資金を貯めるため、そして多くの出会いと成長ができる仕事かと思ひ、営業職を選び、大手事務機商社に入社した。

その年末、長期研修も終りを迎え、年明けからの大阪赴任を控えたある週末：大学時代の同級生が不慮の事故で突然逝去、衝撃的な出来事だった。『自分が今死んでも悔いはないか？』それからは自問自答の日々だった。

しかし、商人の町大阪で



厳しい洗礼を浴び、同期入社が千人もいる中で、自分がただの兵隊のようにしか感じられず、ストレスは溜まるがお金は貯まりそうにない。夢は遠のく一方、2年で退社。その後、色々な喫茶店を勉強するため、大阪の珈琲豆・食材卸の中小企業に再就職。しかしバブル崩壊後で、喫茶店数は激減、経営的な厳しさを肌で感じ、自分が理想とする喫茶店をやるには甘すぎたと思ひ、喫茶店の夢も30歳を目前にあきらめた。

そして月日は流れ、05年秋、故郷の父が急逝：大阪からふるさとに戻ることに、父の遺した休耕田

で喫茶店を始めることを急遽決意。その頃にはログハウスの喫茶店の夢は忘れていたのだが、あとは無我夢中。大好きな珈琲豆にこだわり、売上の柱にと、珈琲焙煎を東京まで習いに行き、飯店舗として3坪のログハウスをセミセルフで建てた。07年春、自家焙煎珈琲豆専門店を開業。豆の売上を軌道に乗せ、本店舗を建築、本格喫茶営業との構想だったのだが、開業の無理がたたり体調を崩し、頓挫。苦肉の策で、テイクアウトコーヒー限定喫茶営業許可を取得、3席だけの喫茶店としても08年夏営業開始。思い通りにいかず、あきらめもした。20年もかかり、たった3坪3席だけの結果的には『ログハウスの喫茶店』の夢を叶えられた。開業後3年は母の闘癌生活などにも重なり、幾度も挫けそうになった。どんなに苦しくてもここまでやって来られたのは、家内の理解と支え、お客様方の温かい応援のお陰である。今はその方たちへの恩返しと思ひ、営業を続け、新たな夢へと向かっている。

話は変わり、1年前、フ

エイスブックで同窓会グループを立ち上げ、24名の同級生が（北は岩手・南は鹿児島、上海や米西海岸からも）参加。毎日のように投稿やコメントがあり、予想以上の盛況ぶりだ。まるで大学生協にいるかのような錯覚にとらわれる。ネット上だけでなく、この1年の間にも小さな集いが数回。この2月はミニ同窓会開催予定。

『時空を超える』交流（たわいない話、誰かの頑張り、現実の集い）全てが、今いる場所のきっかけとなった仲間が、次の夢への原動力になっている。23年前と変わらない、いやそれ以上の！素敵な仲間感謝したい：

ぼれ珈琲

足利市葉鹿町 1239—3

0284—22—3724

info@pole-cafe.com

趣味と信州への

二だわり

熊田悠一（67年卒）

リタイア後はたまたま縁があって、趣味と実益を兼ねて造園業の手伝いをして

いる。昨年8月には「大径木材木材造材」業務にチェーンソーを使用して従事して良いという許可証を取得した。パートタイムでの契約である。したがって仕事の頻度は不規則でシーズン中には週に2〜3回多くても4回くらいであり、週によっては全く声がかからないことも珍しくない。

仕事の内容は植栽と樹木の伐採や選定が大半で、時には大工作业や塗装作業や土木作業が入ることもある。このパターンでもう8〜9年のお付き合いをしている。学ぶことは山ほどあり、奥が深い。体力が相当消耗することもあるが、やり甲斐のある仕事なので全く苦にならない。自宅で復習をして技術を確実なものとするよう努力を欠かさない。そんなこともあって樹木の伐採は簡単なものであれば任せられるようになった。

仕事が入らない時は、自宅で趣味の造園・アプローチづくりや木工作、家庭菜園、さらには肥料づくりなど時期によっても違いがあつて多忙であるが、楽しい。また、ご近所の樹木の伐採や枝おろしなどのボランティア



化粧

イアも喜んでやっている。そして最大の楽しみであったはずの登山などは二の次になってしまった。この点は忸怩たるものがある。

かつては登ったことのある八ヶ岳や鳳凰三山が自宅の窓から直ぐそこに眺めることができ、少し出掛ければ日本アルプスの山並みなども眺めることができる。

春先の山菜も捨てがたく、庭にもコシアブラやタラの木、さらに山ウドなどを植えている。埼玉の友人・知人へのお裾分けを心掛けている。毎年楽しみにしている皆さんがいることを考えると放り出せない。

何より楽しみは秋の新鮮な果物をふんだんに味わうことができることである。

特にリンゴは最高だ。中でも「シナノスイート」という品種は絶品である。また、深紅や赤、黄色の紅葉が実にすばらしい。自宅にもこだわって数種類のカエデの仲間（イロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジ、トウカエデ、アサノハカエデ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、イタヤマイゲツカエデなど）を植えており、特に1本のモミジの葉が緑から赤になるまでのグラデーションは実にすばらしく筆舌に尽くし難い。

真冬の素晴らしいのは他の季節以上のものがあることを特筆したい。それはまばゆいばかりの星空である。今にも星が降ってくるのではないかと思うほどの満天の星であり、星に手が届くのではないかと手を伸ばしたくなるほど間近で輝いているのである。

また、流星もかなり頻繁に見ることができ、心なしかその光跡が長いようにも感じる。拙宅のベランダに寝袋を強いて仰向けに寝そべって眺めることができる。贅沢は何にも代え難いものである。寒さなど何のそ

だ！圧倒されて潰れてしまいう。そう。

「信州万歳、万々歳！」であり、終の棲家と考えているいろやってきたことは正解であったと確信している。この様な生きざまができるのは厳冬の厳しい寒さに耐えて生きることこそ、むしろそのような生活を楽しむことができるものだけに許されるのではないか。

例えば、1月から2月は氷点下7度以下が多く、月に3〜4回は降雪があり、そのうち1回は積雪10cm以上あり、除雪車も出動するが、それだけでは十分ではなく、雪掻きもひと苦労である。

また降雪があると必ず出没するのがシカやキツネなどの野生の動物たちである。彼らと共存しなければならぬことは承知しているが、シカの食害はひどく、県でもその対策に苦慮している。我が家ではシカの害を防ぐために敷地をネットで囲い込んでおり、その設置・管理も容易ではない。近所でもいろいろな形で工夫して対策を講じている。いろいろな面で耐えることを要求される我々の生活

はちようどミヤマザクラが厳しい冬に耐えて春に白い花をそっと咲かせるのに似ている。ミヤマザクラは桜の仲間では一番遅い時期に花を咲かせる種類である。

また、この時期は仕事や趣味の野外作業もオフとせざるを得ないが、のんびりしていると体力が衰えてしまうので、1月から3月初めまでは体力づくりに精を出さなければならない。この信州は体力勝負の地でもある。従って地面の凍結が消えるのは4月に入ってからではあるが、それまで待っていたのではどうにもならないので3月下旬から作業を開始している。

余談になるが、2〜3年前に「脊椎管狭窄症」という病気を発症した。将来のことを考えると手術を選択せざるを得なかった。大変不安であったが、幸いなことに脊椎関係の治療では著名な医師団に出会うことができ、完治に極めて近い状態でもわずか2週間で退院することができた。大変ありがたいことであった。仕事も以前の状態に戻っている。家族の大協力は特筆しなければならぬ。

縁は味なもの

峰崎 進(72年卒)

「縁」というものは今更ながら不思議に思わずにいられません。生まれてから64年、あの時々の人との「縁」がなければ、今の私はたぶん違った別の私になっていたのだと思います。

大学に入った私は、競馬好きな2人の先生(文化人類学コースの故友枝啓泰先生と長島信弘先生)に出会いました。私は高校生の頃からの競馬ファンであったので、学問はさて置き、この2人の先生と競馬談義に夢中になってしまいました。談義だけではなく、大学に近い浦和競馬場、そして東京競馬場や中山競馬場へと、文化人類学でいうところの「フィールドワーク」によく一緒に出かけました。

この「縁」で、長島先生はアルバイトを探している私に、先生のよく知っている出版社でのアルバイトを紹介してくれたのです。哲学、社会学など人文科学系の本を出している小さな出版社で、アルバイトは何の雑役でもやる所謂「ばし



り」でありました。しかしながら小出版社ゆえに、アルバイトをして1年も経たない私に、編集という初めての仕事が廻ってきました。

それは、「ミルチャ・エリアーデ著作集」を制作したときのことでした。全集や著作集を制作する時、小冊子を各巻に挿入するのですが、その小冊子の編集を任されたのでした。小冊子に書いてもらう作家を担当し、締め切りの催促、文字の校正など、数ページの原稿ですが、その編集の仕事を任されたのでした。

その担当になったという「縁」で、作家である人類学者・青木保氏（元文化庁長官、現国立新美術館館長）と共に、1972年にタイ国へ訪れることになりました。青木氏はタイ国で僧になることが目的でした。タイ国で僧になるにはヨーム（僧入りのためのスポンサー）をタイ国ではこう呼びます）が必要で、そのヨーム役を私の従姉の夫（日本へ留学したタイ人の実業家）が引き受けました。

青木氏はその年、ワット・ボヴォニバーという寺院で6カ月間僧生活を送つ

たのでした（詳しくは青木保著『タイの僧院にて』中央公論）。私は、その間、そのヨーム役を引き受けた従姉の夫パイトゥーン氏からチーク材の日本への輸出について意見を求められました。チーク材の集散地であるタイ国北部のブレーという町や、その町から数時間離れたチーク材の森林地帯をジープに乗って興味津々の旅を続けていました。

私はタイ国から帰国後、まだ学生の最後の年でありましたが、パイトゥーン氏に答えるべき、チーク材の市場が日本国内にあるのかどうか、早速東京の木場で材木商を営んでいる高校時代の友人の父親を訪ねて行きました。彼の意見では、材木というものは実際にこの目で見なければ分からないし、取引先の人や会社の信用が第一だということでした。

早速、友人の父親ともう一人の材木商を伴ってタイ国へ再度訪問しました。そこで、彼らはチーク材を直接見て、良質であることを確認し、輸入することを決断したのでした。これがきっかけで、タイ国からのチ

ーク材輸入業を始めました。

1973年4月、小さな会社を千代田区神保町に設立しました。その時、会社運営に関して手助けしてもらった人が、私のアルバイト先であった出版社の社長で、その「縁」で私の会社の役員にも加わってもらいました。その人とは20年以上も私の会社で共に仕事をすることになったのです。

私の会社は、その後パイトゥーン氏が設立したタイ国の医療機器工場へ日本から注射針やプラスチック部材を輸出する仕事も始まり、さらにタイ国からタピオカ澱粉や食品添加物などを日本に輸入することも加わりました。1985年には、バンコク市の近郊にタイ国産の植物から食品添加物の増粘剤を製造する工場を設立しました。その頃は、まだ日本企業のタイ国への進出がまばらな頃でした。

と、ここまで読まれた方は、私を何と運の良い人生を送ってきたヤツだと思われたかもしれません。しかしながら、人生も商売もあらゆるギャンブル（ちなみに私の卒論テーマは「北米インディアン」のギャンブル

とその世界観」でした）も、そう簡単に順風満帆ばかりであるはずがありません。

時代の流れ、運・不運、災害、事故、病氣・死など、自分個人ではとうてい抗うことが出来ない力によつて、あつという間に跡形も無く、築き上げてきたものが流されてしまうことがよくあります。努力で築き上げてきたと自分では思っていたものなど、誰かがあざ笑うかのように、簡単にフェードアウトしてしまいます。

オイルショック、為替変動、バブル崩壊、リーマンショックなど、世界経済に連動するそれぞれの問題は、個人や零細企業には到底防ぎきれような課題ではありません。生きていくために、個人も会社も少しでも傷を少なくすることがせいぜい自分たちでできる守備範囲です。

ご多分に洩れず、私も会社もバブル崩壊時に、私の会社の最大取引相手の大手会社吸収合併され、私の会社との取引が一瞬にして停止されるという事態が起こりました。その結果、会社はおろか、個人の生活費の捻出も憚らない状況

に陥ってしまったのです。そのような状況になってしまい、覚悟を決めてタイの工場の整理をしようとタイ国へ訪れた時でした。長年の友達であったタイ人のホテルオーナーから、私に助け舟とも思える提案がありました。彼のホテルで働いている料理長が日本で仕事をしていたがっているから、彼を誘って日本でタイ料理店でもやってみないかという話でした。

こちらも、当時日々の現金が欲しいところでしたので、最後のなけ無しのお金を叩いて、代々木にタイレストラン「カオティップ」を開店しました。伸るか反るかの大博打でした。何とラッキーなことに、タイの友人の「縁」で繋がった料



埼大文化人類学同窓会（カオティップにて。2010年）

理長は料理の腕も良く、料理の美味さに助けられ、雑誌やテレビなどに取り上げられ、タイレストランとして東京でそここの有名店となりました。

このようにして、私も会社もなんとか生き延びているうちに、徐々にではあります、会社に元の仕事が戻ってくるようになり、また新しい仕事も生まれて来るようになってきました。

今は、このレストランも知人に譲渡しましたが、7年間、目の回るような料理店経営でした。

私は、今も現在進行形で会社をなんとか経営しています。と同時に、営んでいけば必ずいろいろな不測の災難も飛び込んできます。最近では、1年前のタイの洪水で、私の会社の工場も1・7mの水を被ってしまいました。禍福は糾える縄の如しです。

しかし、仕事を発起してからちょうど40年、次から次に起こる出来事のなかで、その都度現れて来る人々が、次々と新しい何かを私に手渡してくれたような気がします。不思議に人の「縁」というリンクを使

って、前の私から次の私に繋げていってもらったような気がします。

私の半生は、もちろん仕事中心でしたが、2年半前、ふと興味半分に新聞に投稿した俳句が特選となり、にわかには俳句作りに力を入れ始めました。たまたま、その選者が私と同じ市川市在住で、どうやら私の句風を気に入ってくれたようで、いくつかの賞に推薦していただきました。

また、この選者の「縁」で昨年は俳句結社に入会し、さらに千葉県俳句作家協会員にも推薦入会させてもらいました。今は、余暇があれば句作りに励んでいます。たまには仕事を忘れて、のんびりとした春風に遊ぶのも良しと思っています。

春風やねむる仔猫のひげの先

Spring wind touches tip of whiskers sleeping kitten

人の「縁」は不思議でなかなか味のあるものです。もちろん結果論と言えませんが、これまでですが、生きてきた、また生かされてきた不思議さの謎を、「縁」というキー



ワードで紐解くと面白い系譜が浮き上がってくるように思えます。「仏縁」といっても、人がまず存在し、その「縁」を渡す人、受け取る人が存在しなければ成立しません。「縁」は「絆」より少々関係性が希薄のように見えますが、意思的でない分だけ私にとっては、時間経過とともに味わいある言葉になってくるようです。

・株式会社オーキス、東京都中央区日本橋蛸殻町1-25-4日本橋栄ビル6F
・株式会社セルリムーバー、埼玉県和光市南2-3-13和光理研インキュベーション305号
写真右は従姉の夫パイトゥーン氏で2006年彼の医療機器工場前に彼自身が作った仏陀の前。左は峰崎氏。

北浦和駅の駅員から 宇都宮線の車掌へ

抱井美由紀（10年卒）

平成22年に教養学部を卒業した私は、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）に採用され、偶然にも大学にほど近い北浦和駅に配属されました2年半の駅勤務後、昨年10月に宇都宮車掌区に異動し、現在は車掌として主に宇都宮線に勤務しています。

入社当初、駅に配属された頃は、慣れない夜勤や膨大な営業制度を覚えることに大変苦労しました。時間が不規則なうえ、泊まり勤務は24時間以上の拘束になるため、体調管理には特に気をつけなければなりません。学生の頃は具合が悪くなれば休むことができたのですが、社会人ともなれば体調管理も自己責任。自分が出勤しなければ、その穴を埋めなければならぬため同僚に迷惑がかかりますし、少人数の職場では、そもそも代わりの人がいません。睡眠時間の確保やプライベート時間にも無理をしない等、体調管理には特に

気をつけました。

また、外から見ると何とも暇そうな駅員も、見るのとやるのでは大違いでした。どの仕事もそうだと思いますが、新しいことを覚えるのはとても大変なことです。泊り勤務明けで、仕事朝に終わってからお昼近くまで職場に残ってこっそり勉強したりしていたことが思い出されます。最初の1年は苦労したことや辛かったことも含めて、自身自身の成長のためには、とてもいい経験になりました。もちろん、大変なことばかりでもなく、秘かな楽しみもありました。改札口に立っていて、大学の先生方や知り合いの後輩達が改札を通るのを見ついたり、みどりの窓口で定期券を販売しているときに見慣れた埼玉大学の学生証を見つけたりしては、『私も埼玉大出身なんです』と言いたくなる、何となく嬉しい気持ちになっていました。新しい仕事を始めて周りも皆知らない人ばかりの時に、出身大学の人を見つけると、ホッとするものです。そういった意味では、最初の配属がホームグラウンドである

北浦和駅だったというのはとてもラッキーだったと思います。

入社3年目の現在は、車掌として主に宇都宮線に勤務しています。といってもまだ研修が終わって一人立ちしたばかりの新人車掌です。新人とはいえど失敗は許されませんので、毎日が緊張の連続です。駅勤務のとき以上に、1分単位での細かい時間管理が必要になりますので、勤務中は一日中時計とにらめっこをしています。

新しい仕事を始めて今思うことは、現状に甘んじてはいけない、ということですね。初めは辛くて自分を成長させてくれた環境も、ずっと同じところに居れば、そこもいずれは居心地のいい場所へと変わり、そこから動きたくなくなってしまう。ずうっと居心地のいい場所にいることは、自分にとって、とても楽なことですが、新しい環境で挑戦しなければ、成長すること何もかを得ることもできません。現状を維持することさえ難しいかもしれません。逆を言えば、辛いことも苦労も、いずれは自分の

糧となるのです。自分にとつては辛くても、あえて新しい環境に身を置くことは、もつとも手っ取り早く自分を成長させられる方法なのではないかな、と最近思っています。

今振り返ってみると、埼玉大学を卒業してから今まで、うまくいくことばかりではありませんでしたが、置かれた環境の中で必死にあがいて何とかここまでこぎつけたなあという気がいたします。やはり、困難な中でも頑張つてこられたのは、学びたい事を自由に学ぶことができた教養学部での経験、そして部活動などの課外活動があったからではないかと思えます。

一つ後悔することがあるとすれば、これまで長期の旅行に行けていないことでしょうか。学生のころにも、部活が忙しいとかバイトがあるとか、もちろん勉強に忙しいとか、何かと理由をつけては諦めていました。学生のころに、もつと色々な所へ行っておけば良かったと今になって思います。もともと旅行は好きなのですが、今はまだ仕事の都合上、長期のお休みがなかなか

かとれませんので、いつかはゆつくり長旅に出てみたいと思っています。

現役生から

留学と学部生活

田口貴信



(文化環境専修3年)

大学2年次の春頃から、何か新しいことをしたいと考えていました。その中で留学という選択肢に辿り着いた理由は、自分の英語力に物足りなさを感じたことがきっかけでした。そして何よりも、両親が留学の後押しをしてくれたことが大きかったです。

その後、私は留学を斡旋する業者の試験を受け、その結果、留学費用の一部を免除していただきました。そして、2年次の終わりと同時に米国・ワシントン州へ飛び、1年間の留学が始まりました。留学する上で選択肢がいくつかありましたが、私自身が高校の修学旅行で米国に行ったことがあり、もう一度訪れたいと考えていたので最終的に米

国に決まりました。

到着してからひと月の間は、フィリピン人の家庭でホームステイをさせていただきました。その後は、アメリカ人の夫妻の下で約1年間受け入れていただきました。このアメリカ人夫妻には非常にお世話になり、今でも手紙のやり取りを続けております。

ホームステイを通じて学んだことはたくさんありますが、中でも積極的に人と関わる姿勢の大切さを痛感しました。私は自分から話すのが苦手で、人と話すことも面倒に感じがちでした。日本にいる時と変わらず、受け身の姿勢でいた結果、ホストファミリーには厳しく注意されました。そこから少しずつではありますが、私は他の人と話すことに真摯になり始めました。

留学中は様々なことに挑戦しました。その中でも、ボランティアの経験が最も印象深いです。現地の教会で炊き出しのお手伝いをさせていただき、多くのホームレスの方と話す中で、ボランティアは社会に必要だと考えるようになりました。余談ですが、アメリカで

は、少なくともワシントン州ではボランティアをすることは当たり前のことです。現地の高校生、大学生は自主的に参加する人が多いです。日本のようにボランティアを社会貢献の一環としてやらせる風潮は無く、参加者の楽しげな様子に衝撃を受けた記憶があります。

現地では、州立のベルビューカレッジで私は勉強していました。この大学は数年前に単科大学から総合大学になった歴史があります。ここでは留学生向けに国際ビジネスを学ぶプログラムが組まれており、政治経済について主に学びました。自由選択科目を履修する機会では、私が日本で文化人類学のコースに所属していることもあり、まず人類学の授業を取りました。

大学の講義についていくのは大変でした。人類学の授業では毎日、A4で20



枚程の学術書を各自で印刷し、それらを読んで要約したものを授業の頭に提出しなければなりませんでした。日本の大学よりも、人類学の用語の定義を覚えることに力を入れて印象を受けました。政治経済の授業では現地の学生とグループワークや発表を行うだけではなく、意見を求められる機会が多く、非常に新鮮でした。

米国で1年弱の期間を過ごし、2月の末に私は日本に戻ってきました。大学の同級生達は就職活動の最中でしたが、皆元氣そうで安心しました。帰国した当初は、大学に上手く馴染める気がせず心配でしたが、同級生が先輩と後輩に予め話しておいてくれたお陰で思ったよりも早く馴染むことが出来ました。

きな財産だと私は思います。というのも、前述のように、内輪で固まって過ごすことは別に悪いことではないと思います。ただ、それでは人間関係の幅は狭いものに終始し、人間としての幅も狭まるように感じます。他の大学で勉強してきた院生の方から幅広いお話を伺い、時には一緒にお酒を酌み交わすことで、新しい気付きを得させていただいたことは、私自身何度もあります。

先輩達との出会いがきっかけで、私は他大の学生に興味を持ち、去年の夏はいくつかのインターシップに参加しました。ここでは、多くの個性的な人達に会い刺激を受けました。ですの、私は学部の後輩には、院生の方々が持つ「外部の雰囲気」からどんなに些細なことでもいいので、学ぶ姿勢を忘れないでほしいと願っています。その結果、彼らが活動の範囲を大学外にも延ばしてくれば幸いです。

最後にありますが、私は今でこそ埼玉大学に愛着がありますが、2年生の時は大学に興味を持てず、辞める気でいました。あの時に「甘えるな」と一喝してくれた両親、そして今現在お世話になっている教授、先輩、後輩のお陰でここまでやってることが出来たと思っています。この場を借りて、心よりの感謝を申し上げます。就職活動も簡単には終わらないと思いますが、根氣よく続けていきたいと考えています。



学生時代の思い出 (地理学・文化人類学専攻)

弘山 舜(13年卒)

私の大学での生活は学部でのものと、サイクリング部という課外活動の場でのものと、2つの場面が中心だったと思います。

教養学部の中の地理学・文化人類学専攻に所属していた私は勉学に関して人一倍熱心というわけではありませんが、それなりにには取組んできました。一番印象深いのは、実習として愛知県の野外民族博物館リトルワールドへ行った時の事です。そこには屋外での様々な民族の家屋の展示がされています。実習として、家屋・資料などを自分の目で見たうえで、家屋の形態や特徴を調べ、その背景にある文化的、地理的要因などを明らかにするといった事をして来ました。

日程は金曜日の夜に夜行バスで愛知に行き、2日間リトルワールドを廻り、月曜日の朝6時頃に東京へ着くというなかなかハードな日程でしたが、貴重なものが見られた事と、思っていた以上に楽しむ事が出来た実習でした。というのも、施設内ではインドの民族衣装を着たり、ワニやダチョウの肉を食べることが出来たり、サーカスや沖縄の民謡の演奏を見ることが出来たりと楽しめる企画が盛りだくさんだったからです。



国道最高地点波峠にて

になり、テント・寝袋・鍋・フライパンなど生活用品を自転車に積んで、学生向けの安宿やキャンプ場に宿泊をしながら2週間ほど旅をします。班によって目的はさまざまで、観光地をたくさん廻る班や、日によって200キロを超えるようなひたすら距離を走って山を越える班があったり、美味しいものを食べまくりたりする班もあります。

私がいた班では、観光・ご当地ものは押さえつつも、たくさん走り高い山を越え、夜は公園などで自炊して、テントも張らずに満天の星空の下で眠るというワイルドな合宿をしました。

地元の人々の迷惑にならない程度に花火をしたり、お酒を飲んだりした事も少なくありませんでした。いろいろなものや景色を見る事も良い経験ですが、一緒に走る仲間と山を越えたり寝食を共にする行為自体や、地元の人・旅をしている人や他大学の人々と一緒にお酒を飲んだり、交流したり出来たが合宿の醍醐味だろうと思っています。

私の内定先の方曰く、学力なども考慮したが人間性

を重視して学生を選んだそう、合宿などを通して得られた価値観、振る舞い方などを高く評価していると言っていたけました。学問に打ち込むことも重要な事ですが、学生の内に多様な経験、さまざまな種類の人と交流を持つというのは大切なことですし、何より楽しいので後輩にも伝えていきたいです。

また、私個人は坂を登ることが好きで、部の活動も含め、日本の自転車で行ける高い場所はあらかじめ制覇したかもしれません。乗鞍岳で開かれている大きな大会にも出場し、一生楽しめる趣味を見つける事が出来たと思っています。

大学ではさまざまな事を学び、良い経験もたくさん出来ました。中でも旅先でふらーっと走った先のどこかにも良く分からない土地の公園で、暖かい日差しの中で昼寝をするのが一番のリラックスだという事を発見したのが大きな収穫かもしれません。これから社会人になります、普段の生活の場を離れ、一人でゆっくりできる時間を大切にしつつ頑張っていきたいです。

あらかると

教養学部1期生の



同期会を川越で開催

2012年教養学部1期生の同期会が4月21日(土)に川越の割烹『幸すし』で行いました。川越駅に集合し、喜多院と東照宮を見学し、次に蔵造りの街と菓子屋横丁を見物し、その足で近くの『幸すし』で宴会になりました。集まったのは入学時100名のうち26名でした。お互いの健康や暮らしぶり、思い出話で和やかに飲食歓談し、あつという間に時間が過ぎてしまいました。



フェイスブックを使っ

て教養学部90年卒2

2期会を開催する



昨年2回10名程度のミニ同窓会を開催いたしました。5月開催は、Be-PLANTで社会人1年目に交通事故で命を落とされた同級生の供養を兼ねた同窓会です。8月開催は、その参加者の一人(鶴谷氏)のご厚意で自宅開放海合宿同窓会です。どちらもフェイスブック

(ネット上の交流サイト)で11年末・12年に再会を果たした仲間達と昨年1月、同窓会グループを立ち上げ、その流れで決まった現実の同窓会です。同窓会中も海外や遠方で参加できない人もフェイスブックやビデオ電話を通じ参加し、時空を超えた同窓会でした。

この2月10日にも東京で、15〜20人規模の同



窓会を開催予定です。

埼玉大学同窓会の

ゴルフコンペに参加を



2012年11月21日(水)に大宮国際カントリークラブでむつめゴルフコンペ(埼玉大学全学部同窓会)が開催されました。参加者17組67名で教養学部から6名参加し、毎年秋に開催され、今回から平日開催になりました。サークルの先輩後輩など学部を超えた友達とも思わぬ再開などもありました。ぜひ友達を誘って参加しましょう。詳細は9月頃の埼玉大学同窓会またはけやき会のHPを見てください。

埼玉大学ホーム



カミングデーに大学へ

2013年11月2日(土)に埼玉大学全学部卒業生を招いて大学の現状を知っていたくとともに、恩師とともに旧交を温める機会としてホームカミングデーを設けます。当日はむつめ祭も開催中なので、それも楽しむことができます。旧友に会いに大学に行きましょう。

先生や同窓生の本

①『BQ』時代を生き抜く能力 林野宏著・文理65年卒クレディセゾン社長。プレジデント社 1575 円

総合的なビジネスの指標「BQ」ビジネス感度」が重要と説く。BQ は知性を示すIQ、理性や人間性を示すEQ、感性を示すSQを掛け合わせたもので、林野氏のオリジナル指標である。

②『まじめな日本の私』山中信彦・埼玉大学教授著・明石書店 2310 円

③『グローバル化するアジア系宗教』中牧弘允著 70 年卒・東方出版 4200 円。国立民族学博物館名誉教授・吹田市立博物館館長。専攻は宗教人類学・経営人類学。

④『妖怪文化入門』小松和彦著 70 年卒・国際日本文化センター所長・角川ソフィア文庫・740 円。日本の民俗文化、とくに鬼や妖怪、呪術、憑き物などを研究。



2013 年度教養学部入学案内のデータより抜粋

2012年度入学者選抜実施状況(11年度)						
定員	日程	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
160	前期	125	429(376)	417(362)	175(169)	165(160)
	後期	35	160(400)	160(400)	35(44)	帰国子女2

出身校の地方別入学者数			
	2010年度	2011年度	2012年度
北海道	2	5	2
東北	45	34	35
関東	76	85	88
(うち埼玉)	(27)	(39)	(31)
中部・近畿	21	25	30
中国・四国	5	4	5
九州・沖縄	9	7	5
外国・検定	5	10	7
合計	163	170	172

就職先 (2007年度～2011年度)					
卒業年度	2007	2008	2009	2010	2011
卒業生数()女子数					
就職希望者数()女子数					
就職者数()女子数					

業種内訳 () 女子内数					
農林水産	2(1)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)
建設	2(2)	0(0)	0(0)	2(1)	4(3)
製造	21(11)	20(11)	11(7)	22(16)	16(8)
電気・ガス・水道エネルギー	0(0)	0(0)	0(0)	3(1)	2(1)
通信・運輸	31(20)	28(19)	20(13)	14(5)	19(7)
飲食・卸売・小売	29(19)	23(19)	17(12)	8(5)	15(11)
金融・保険	26(21)	28(20)	31(23)	19(14)	17(15)
不動産	3(1)	1(1)	4(3)	1(1)	2(2)
サービス	28(17)	23(14)	18(11)	26(15)	24(19)
教育	4(2)	10(3)	4(2)	13(10)	13(11)
公務	6(2)	14(7)	17(6)	23(17)	27(14)
その他	1(0)	3(3)	0(0)	2(2)	2(2)
大学院進学(男女計)	11	17	10	12	11

主な就職先 (2011年度)	
農林水産	イワタニ・ケンボロー
建設・製造	平成建設、イーグル建創、玉家建設、一条工務店群馬
	三菱電機特機システム、シーアイ化成、イワタボルト
	グレープストーン、日本特殊陶業、セイコー高周波、細川洋行
	山陽マシン、リズム時計工業、大森機械工業、上板塑性
宿泊・飲食・卸売・小売	ルートイングループ、ニッコウトラベル、日京クリエイト
	タリーズコーヒー、ハピネット、パレスエンタープライズ
運輸	JR東日本、西日本鉄道、日本通運
	航空集配サービス、ロジネットジャパン
通信・マスコミ	NTTコムウェア、読売インフォメーションテクノロジー
	三菱UFJインフォメーションテクノロジー、オービックビジネスコンサルタント
	丸紅OKIネットソリューション、PMR
金融・保険	野村證券、みずほフィナンシャルグループ、りそなグループ
	東邦銀行、岩手銀行、足利銀行、山形銀行、荘内銀行、八千代銀行
	常陽銀行、香川銀行、城南信用金庫、コープ生活協同組合連合会
教育・学習支援	埼玉県中学校教員、埼玉県高等学校教員、大阪府高等学校教員
	国大セミナー、進研アド、東京声優アカデミー専門学校
	ABCクッキングスタジオ
その他・サービス	アストモスエネルギー、JPビジネスサービス、京王ストア、ノジマ、
	トップカルチャー、片岡物産、関東信越税理士会、船井総合研究所
	戸田中央医科グループ、ポストンサンエンティフィックジャパン、ベネッセケ
	イルケア、埼玉県福祉事業団、日本労働者共同組合連合会センター事業
	マーケティングコア、ダーウィンシステム、フューチャーリンクネットワーク
公務	日本保育サービス、こどもの森、日本年金機構
	衆議院事務局、関東財務局、裁判所、東京都、さいたま市
	川崎市、栃木県、群馬県、群馬県警察、山形県、富山県
	公立学校共済組合本部、伊勢崎市、志木市、中野区
	江東区、東松山市、春日部市、熊本県、藤沢市、埼玉県警察

留学先		
国	大学名	2007～2011
アメリカ	ポーリンググリーン州立大学	5
	ミドルテネシー州立大学	6
	イリノイ大学スプリングフィールド校	6
	ノースカロライナ州立大学アシュビル校	1
イギリス	エセックス大学	2
	マンチェスター大学	3
カナダ	ローレンシア大学	1
オーストラリア	モナシュ大学	3
スウェーデン	リンショピング大学	3
ドイツ	コトブス大学	2
中国	中国人民大学	1
	大連理工大学	1
韓国	高麗大学	3
ネパール	トリブバン大学	2
タイ	タマサート大学	1
セルビア	ベオグラード大学	1
ポーランド	ポーランド日本情報工科大学	1
合計		42

ミニ同窓会補助金申請書	
会の名称	鶴谷邸合宿同窓会
代表者	氏名 長竹 均 卒年 90年 郵便番号 326-0143 住所 栃木県足利市葉鹿町1339-1 電話番号 0284-62-1639 Eメールアドレス pole-coffee@pure.ocn.ne.jp
実施日	平成24年8月25日・26日
開催場所	鶴谷武親邸 (神奈川県逗子市)
出席者人	11名
振込先	ゆうちょ銀行〇〇〇〇〇〇〇〇 長竹 均
会の様子(10ページの写真)左上から 島田満(千葉) 桐野好学(岩手) 平林秀一(東京) 鶴谷(家主) 石澤信彦(松本) 小川茂美(浜松) 長竹(本人) 五味測康夫(横浜) 川口弘晃(仙台) 近谷英悟(神戸) 写真にいませんが、日帰りで桜澤康弘(さいたま)の計11名で、もともと別荘だった鶴谷の住居での子連れもありの夏合宿でした	

**2013年度
けやき会総会の
お知らせ**

1. 期日
6月29日(土)

2. 日程
12時 理事会
2時 講演・加藤基氏
3時 総会
懇親会(総会終了後)

3. 場所
埼玉県立近代美術館
(北浦和駅前・旧文理学部)

4. 懇親会費5000円

加藤 基氏の紹介
69年埼玉大学教養学部卒。国際関係コース1期生。外務省において開発・支援など外交官として活躍。元ガボン大使。現在、埼玉大学客員教授。

事務局から

2014年新名簿作成 にご協力を

2005年版の名簿が、訂正箇所が多くなり、新規卒業生も多数になってきたので、2014年発刊を指して新しい名簿を作成することになりました。前の名簿作成をお願いした株式会社サラトに依頼して作成することになりました。ぜひご協力をお願いいたします。

ミニ同窓会を開催したら 補助金申請を

2010年度よりミニ同窓会(10名程度)に、けやき会より1万円補助することになっています。同期

2012年度 埼玉大学けやき会決算報告

(2011年4月1日～2012年3月31日)

単位:円

収入		
繰越金	3,081,871	
会費・寄付(郵便振替)	2,057,620	
現金寄付	30,000	
雑収入(利子)	198	
懇親会費	204,000	
計	5,373,689	
支出		
ホームページ管理費	358,995	
会報費	172,340	
同窓会連合会会費	0	
総会費	627,163	
総会懇親会費	409,225	
名簿送料	10,100	
会議費	9,999	
事務費	44,361	
同期会専攻別同窓会援助費	0	
学部研究教育支援	200,000	
埼玉大学被災学生救援費	0	
計	1,832,183	
残高	収入5373689-支出1832183	3,541,506
	残高内訳	3,541,506
2012/3/31	郵便振替口座	1,726,187
2012/3/31	埼玉りそな銀行	736,290
2012/3/31	郵便貯金	915,017
2012/3/31	現金	164,012
	2012年6月19日	
	会計担当 関根増男	
	会計監査 武井尚・酒井憲太郎	

2011年度決算報告

左の決算報告の表をご覧ください。収入はほとんど、新入学生のけやき会加入費と卒業生の加入費と寄付です。支出は、総会が東京駅隣接のサピアタワーの東京

会や同じ研究室の同窓生の集まりを結構行っているらしいという情報が入ることがあるのですが、昨年は3件しか申請が来ておりません。連絡費くらいのはずしにはなると思っています。左の申請書例にならって事務局(最後のページのあとがきを参照)に送ってください。メールですといちばん助かります。

けやき会の役員募集

けやき会では会計、会報編集、総会、庶務などの事務をする役員が少なく困っています。家でもできるボランティアの仕事です。

ホームページに載せたい 同窓生の情報求む

著書・活動・就任・表彰など情報を同封の葉書やEメールでお知らせください。

発行者
埼玉大学けやき会

(埼玉大学文理学部
文学部・人文科、
教養学部同窓会)

会長 榎木誠
編集担当 関根増男

事務局

〒358-8570

さいたま市桜区

下大久保 255

埼玉大学教養学部内

Eメール

info@keyaikai.net

